

れや様々と考え、その喜ぶ姿を思い浮かべつつ添えていると思うのです。

先日、自分の実家について話し合う機会がございました。この実家というのは、自分が生まれ・育ったところであり、

なにより親が居られ帰って来るのを待っている。そのようなところではないか。というように話されました。

そこで思わせて頂いたことは、その実家のことを考えると、いつまでもその場所にはないということだと思っております。

親は亡くなり建物も移転や解体などしてなくなり、その実家に帰ることが出来なくなっていることがあると気づかされました。いつも親が待っていて下さり、その場所是不変に変わらない。そこがおぢばでございます。

さて、教祖はなにを添えるとお受取り・お喜び頂けるのでしょうか？

私達にはもう一つの誕生日がございます。それは、人がたすけるために、たすけ一条の道を歩むようぼくとして、

生まれさせて頂いた日でございます。これまでの誕生日は

親に教えてもらった日であり、ますが、もう一つの誕生日はこのたすけ一条の道を歩むことを自身が心定めた日であり、私達が生涯忘れてはならない誕生日であると思うのであります。

にちく／＼をやのしやんとゆうものわ たすけるもよふばかりをもてる (十四 35)

と、おふでさきにございませうが、私達は教祖の御心を思い、私達ようぼく一人ひとりが人をたすけるために、苦勞を厭わず喜び勇んでつとめさせて頂きたいと思っております。

教祖は、ご存命でお働き下され、可愛いわが子がおぢばに帰ってくるのをお待ち下さり、事情に悩み苦しむ方々をおぢばにお連れし、そのたすけを願ひ親神様・教祖におすがりし、おぢばで親神様の御教えをお聞きいただきたいと思うのであります。

教祖は、私達に人をたすける事をお教え下さいました。今一度、教祖伝・逸話篇に親しみ、いつまでも幼児のまま

で誕生日を祝ってもらうのではなく、少しでも成人した姿をご覧頂き、教祖にご安心・お喜び頂けるよう、私達の心を添えてお祝いをのべて頂きたいと思っております。

と、おふでさきにございませうが、私達は教祖の御心を思い、私達ようぼく一人ひとりが人をたすけるために、苦勞を厭わず喜び勇んでつとめさせて頂きたいと思っております。教祖は、ご存命でお働き下され、可愛いわが子がおぢばに帰ってくるのをお待ち下さり、事情に悩み苦しむ方々をおぢばにお連れし、そのたすけを願ひ親神様・教祖におすがりし、おぢばで親神様の御教えをお聞きいただきたいと思うのであります。

の種は、腐ることはなく、必ず生えたとお教え下さっています。

石の上に種を置く、風が吹けば飛んで了う、鳥が来て拾うて了う。生えやせん。心から

真実蒔いた種は埋つてある。鍬で掘り返やしても、そこで生えんや外で生える。

（明治23・9・30）

人の目を相手にして種を蒔いているようでは、お受け取り頂くことはできないのです。人が見ていようが見ていまいが、心から人のために尽くした種は人が掘り返しても、所

が、人を変えて下さるのたすけ種とお教え頂いておられます。

先程お話させて頂きました。私達は、先人の方々が種を蒔いて下さり、お通り下されたこの網走に繋がっております。

（おふでさき号外）

昨今、桜が咲き始めたところもあり満開の映像が流れ、こころを癒して頂いておりますが、ここ網走では5月の初旬の予想です。その楽しみはもう少し先でございます。桜は、寒さを通らなければ咲かないと教えて頂きました。早くも

農家では収穫を楽しみに、温かいハウスの中で種蒔きの作業が始まっていると、農地への植え付けなど作業が本格化してまいります。

種を蒔いただけでは育つてはまいりません。種が芽生えて芽が伸び、花が咲いて実るまでには、肥料を適切に幾度となく施さなければなりません。

寒さを身上や事情に置き換えてみます。先人の方々は、寒さの中を艱難苦勞を厭わずこの丹精をして下さり、先の楽しみの花が咲くことを信じ、人をたすけることを喜び勇んでお通り下さいました。

教祖のご誕生日と大教会の110周年に向かい、皆様と共に日々勇んだ心でしっかりと喜びの種を蒔かせて頂きたいと思っております。

私達は、先人の方々が種を蒔いて下さり、お通り下されたこの網走に繋がっております。

（おふでさき号外）

たすけ一条の上に蒔いた理